

平成 28 年度 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン インテンシブコースセミナー

日 時：2017年3月18日（土）13:30～16:30

場 所：兵庫県立大学 明石看護キャンパス 多目的ホール

テーマ：看護の臨床における現象を読み解く～明日からの看護に活かす精神力動論～
がん看護事例検討会（theoretical case study）キックオフ講演会

講 師：近澤 範子先生（兵庫県立大学 名誉教授）

受講者：55名

アンケート回収：47名（回収率：85.5%）

主 催：兵庫県立大学看護学研究科 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
代表：内布敦子

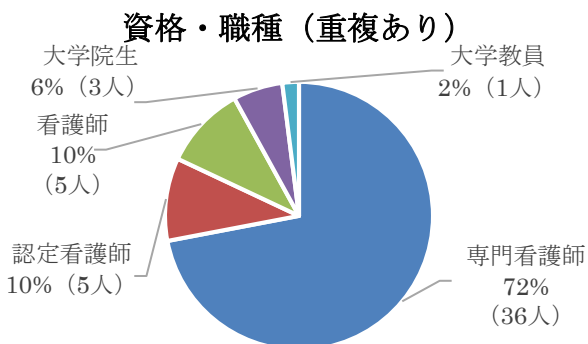
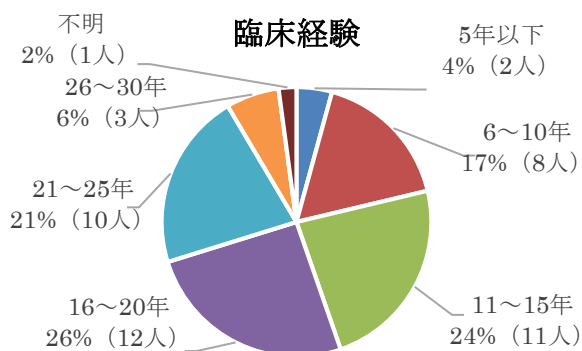
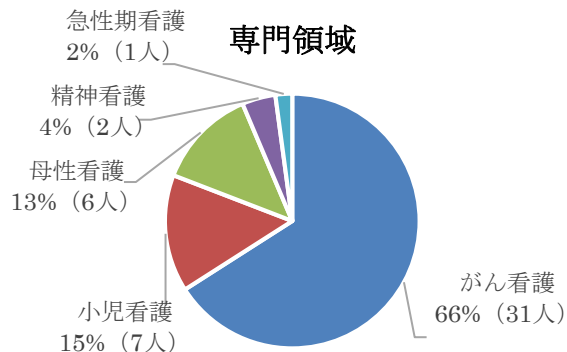
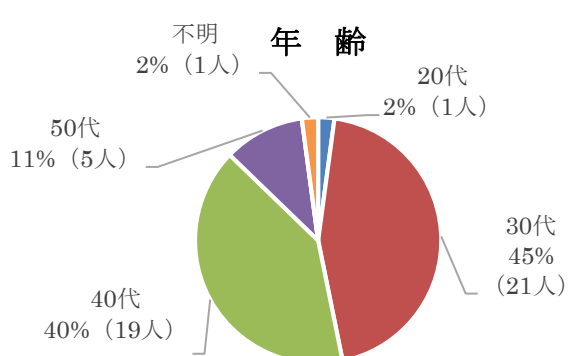
<開催概要>

今回のセミナーは、「看護の臨床における現象を読み解く～明日からの看護に活かす精神力動論～がん看護事例検討会（theoretical case study）キックオフ講演会」と題して、近澤範子先生（兵庫県立大学 名誉教授）にご講演および事例検討会のスーパーバイザーを務めていただきました。講演では、精神力動論について分かりやすくご解説いただき、その後、思春期・若年成人がん患者（AYA 世代）に関する事例をもとに、グループディスカッションを通して事例分析を行い、理論を看護実践に適用する際の視点や、AYA 世代のがん患者への看護支援について理解を深めました。

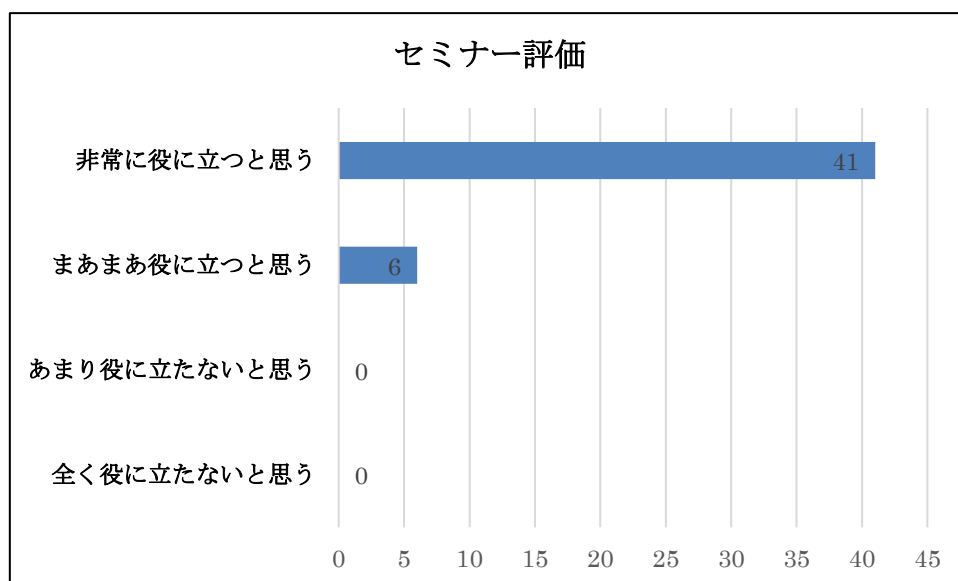


<アンケート集計結果>

Q 1 : 最初に、あなたご自身のことについて、お尋ねします。



Q 2-1 : 今回参加されたセミナーは今後役に立つと感じますか。



Q 2-2 : 企画に参加してあなたが感じたことがあれば自由にお書きください

- ・臨床でも困難事例に関わる際に、事例検討で考えたプロセスを活用して患者を理解していきたいと考えました。
- ・今回の学び、講義内容を病棟に持ち帰ってスタッフに伝えたいと思います。本人を脅かすことなく、患者さんが話すことを全部受け止められる関係を作っていきたいです。
- ・患者さんに起こった現象をどうみるのかの一つの視点として力動論を用いて検討し学ぶことが出来て良かったです。
- ・精神力動論を活用したいと思った。
- ・精神力動論を知り、今の現象を適切に捉えることに大いになると思いました。アプローチの視点が広がりました。
- ・日頃困っていた精神面のアセスメントが理解できた。
- ・精神看護の視点で事例を見ることはとてもおもしろく、新たな気づきがありました。
- ・AYA 世代の患者さんいつも現象を捉えることが課題でした。自我機能のアセスメントの引き出しが増えて、とても勉強になりました。家族背景の複雑化もあり、混沌としていて、見えなくなっていました。本当にありがとうございました。
- ・看護の力（CNS としての力）をあらためて感じ取れました。がんばっていきたいです。本当にありがとうございました。
- ・事例検討は、他分野のナースの方の意見が聞けてよかったです。大変有意義な検討・学びが出来てありがたかったです。
- ・本人の訴えや病状に対し、身体的でなく心理的な面からもアプローチを並行して行うことが重要だと感じた。
- ・理論の説明と事例の展開を考えることを今後もこのような機会を利用して自己研鑽持していきたいと思いました。
- ・理論を活用して行う事例検討の機会というのは、あまりないので貴重な機会でした。また機会があれば参加したいです。
- ・普段実践で理論を考えていくことが少ないですが、これまでの症例も振り返りながら学ぶことが出来たと思います。
- ・とても役に立つというより、立てる自分のスキルが満たないので、もっとこの様な機会ですスキルアップしたい。
- ・話し合いの時間がもう少しあると良かった
- ・精神力動論を初めて学びましたが、講義内容難しいと思っていましたが、事例を通して、体験し、アプローチ方法を学びました。本日の内容をまとめて使っていきたい。
- ・とても聞きたかった内容です。
- ・CNS コースで精神力動論を学んだが、分野の違う事例を検討することの困難さ、重要性に気づかされました。大変勉強になりました。
- ・理論と実践に活用できるように、時間をとって事例を振り返ることが出来ればと思います。内布先生と近澤先生のディスカッションがとても勉強になりました。
- ・他領域の方と検討することで、発達などの視点でもディスカッション出来てとても有意

義でした。

- ・現象を多角的な視点から（他分野の専門家も含めて）アセスメントすることの重要性を学びました。
- ・今までに使ったことがなく初めての理論だったので、分析を体験しながら学べたことがありがたかったです。また、CNSが多分野で分析する意義も感じました。
- ・AYA世代の特徴や自我の状況を理解して、向き合うこと、寄り添うことが大事であると感じました。臨床での検討につなげたいと思います。
- ・患者のおかれている現状を理論を用いてアセスメントすることがとても重要であること。それが不十分だとアプローチによって、患者をより混乱させてしまうことを痛感しました。他のグループの意見も聞けて、色々な人とアセスメントしていくことの重要性を感じました。
- ・他領域のCNSとの議論は有意義でした。
- ・事例のAYAの背景がもう少しあると良いと思った。精神力動の解説でより理解が深まった。
- ・事例を通してグループワークを行ったことで、様々な視点で考えることができた。精神力動論は初めて学んだが、すごく難しいと思った。事例分析、ディスカッションを聞いて、事例を把握することができた（少しですが・・・）。
- ・講義については以前にも学んだことがある内容でしたが、あらためて学ぶことができ再確認できました。グループワークは分野的に事例と前半の学びをうまく絡めて考えることが難しいと感じました。全体的に時間がタイトでゆっくりじっくり考えるには至りませんでした。前半の講義内容は今後の対象理解の際にも活かせると感じます。理論にあてはめた事例の紹介をもっと先生にさせていただきたかったです。1, 2例紹介はありましたが、そのような捉え方、考え方をもっと知りたかったです。
- ・経験のある他のCNSさんの意見を聞くことで、色々な方面から事例を考えることが出来なかったです。
- ・現象や行動を理論から捉えることの大切さがわかってきたように思います。ただ理論を使って分析するだけでなく、看護師としてできるケアを考えたいと思います。
- ・時々AYA世代の患者さんが入院されるのですが、どの様に関わればいいのかむずかしさを感じています。業務的になっていることが多かったりしていたので、今日のセミナーや事例検討で話をきけたことで心理面に目を向けて関わっていけたらと思います。まだ理論の事を頭で整理できていませんが、勉強しなおそうと思います。
- ・事例検討の前に、「ポイントをしぼって」「これに沿って」との説明があったためとてもやりやすかった。
- ・理論を使って看護の対象理解に加え、有効なアプローチまで見出すプロセスを経験出来て勉強になった。
- ・事例検討は、自分の思考の整理、言語化のトレーニングの場になるのでとても学びになった。精神力動論は、全ての分野に必要な理論であるので、成人にとらわれず、小児の心理、AYAの心理など学ぶことができました。

- ・もう一度改めて精神力動論について学びなおし、実際の事例の分析をしてみることで、理論の実践への活用について深く理解することができた。

日頃の看護実践において、現在どのようなことが課題としてあげられるでしょうか。また、事例検討会を進めるにあたり必要な情報、知識はどのような内容でしょうか。

Q3-1：看護実践上の課題をお書きください。

<AYA世代に関すること>

- ・今回のような若年がん患者への介入
- ・母性領域においても、AYA世代のがん患者さんと接することはあります。妊娠してから発覚される場合、がん患者さんで挙児希望がある場合など、症例数は少ないですが最近そういう方のコンサルトもあるので、学ばなければいけないなあと感じています。
- ・(AYA世代に) どのように関わり関係性を構築すればいいか技術的なこともあります、とても業務的になっているので、関心をもって関わる必要があると思っています。
- ・小児領域で勤務しているものの、20代へのキャリアオーバーの患者も多く、10代～20代の幅の患者への介入が難しい
- ・思春期・若年成人期の患者さんとのコミュニケーション。積極的傾聴ができるようなスキルを多忙な看護師ができるのか、CNS、心理士さんたちの力を借りないと難しいと感じる。

<事例分析・アプローチに関すること>

- ・今回のように理論を用いて検討する機会はないので、このような検討会をお願いします。
- ・家族看護のCNSの意見なども聞いてみたい時があります。がん分野しか当院にいないので、こういう機会がとても貴重です。
- ・いわゆる患者に現れている現象の背景をどうとらえるのか
- ・本人の精神状態、家族関係など全てが複雑に重なり合っている際のアプローチを分析して、読みといてアプローチにつなげていくこと
- ・理論と実践の間。どのようにケアにまで活かしていくか。
- ・事例でとりあげられる患者さんが捉えている課題は複雑化しているため、多角的に検討していく必要がある。今回のように、様々な専門分野の人々と検討できる機会がないことが課題です。
- ・がん治療のこととか、多分野で行うための準備。AYA世代の特性など考えておけることも意味があったので、基盤の準備。
- ・検討のすすめ方、まとめ方
- ・理論を意識しているが、このような会に参加させてもらおうと、なかなかできないのではないかな。それを向上させていくためにも、このような会は重要だと思いました。ありがとうございました。
- ・患者の理解を客観的にとらえるときに、どうしても看護師目線になること。看護師の価

值的視点で患者を見てしまいがちになること

- ・日々の看護の中でたくさんの事例がありますが理論に基づき振り返れる機会が少ないので、もう一度理論を考えていきたいです。
- ・現象を丁寧に捉えるための知識や技術

<認知機能障害に関すること>

- ・認知機能障害、その疑いがあるがん患者への対応・ケア
- ・認知症のあるがん患者さんとの関わりに課題をもつことが多いです。
- ・認知症患者の意思決定支援×2名

<意思決定に関すること>

- ・意思決定支援
- ・DNARのタイミング。そもそもDNARを取らないといけないのかと疑問に感じるのに病院としては（語弊がありますが・・・）積極的に患者に聞く。
- ・ACPにおける看護師の役割

<外来看護に関すること>

- ・外来での症状緩和
- ・外来で必要な患者に必要なケアをタイムリーに提供できるようにしたらよいか日々悩みます

<倫理面に関すること>

- ・倫理的問題へのアプローチ
- ・他部署、他職種との連携の際の倫理的なジレンマ

<看護業務上の課題に関すること>

- ・スタッフの看護ケアの意識が低下しているように感じ、どのように支えていくか。
- ・患者の状態を検討しアプローチ方法を話し合う場、時間をとることが難しい。
- ・やはりじっくり現場で検討する機会があること、機会を重ねることの実現だと思う。時間がないとか、現場ではそこが問題になるので。
- ・カンファレンスの充実が図れない。時間調整や進め方など。

Q3-2：事例検討会における知識提供として取り上げて欲しいテーマをお書きください

<他の理論や事例分析・アプローチ>

- ・セルフケア理論×2名
- ・オレム・アンダーウッド理論
- ・オレムのセルフケア理論を用いたセルフケア支援、症状マネジメント（IASM）を使った事例検討
- ・現象学的アプローチ

<AYA世代関連>

- ・妊孕性についての影響、知識の部分
- ・がんと生殖。生殖年齢にあるがん患者さんの実践の現状、一般的な治療内容、情報提供内容

- ・ AYA 世代のターミナルケア
- ・ 移行期支援など
- ・ 引き続き 10 代、20 代の患者へのケアについて活用できる理論
- ・ 今回のような、AYA 世代の検討は今後も取り上げて欲しい

<意思決定支援>

- ・ 倫理、意思決定など
- ・ がん治療の意思決定
- ・ ACP

<小児看護>

- ・ 子どもの緩和

<家族ケア>

- ・ 18 歳以下の子どもをもつがん患者さんの子どもへの支援
- ・ 家族へのアプローチ

<その他>

- ・ 遺伝性がん
- ・ 積極的傾聴の方法について
- ・ 色々勉強したいです
- ・ 他の事例での精神力動論
- ・ これを繰り返してほしい

Q4：今後、インテンシブセミナーで取り上げて欲しいテーマをお書きください。

- ・ 今回のような心理面のアセスメント、アプローチ法
- ・ 他の専門分野の CNS の話を聞くことが出来て貴重な事例検討会となりました。
- ・ 認知症のがん患者のケア
- ・ 妊娠期、産後、育児期におけるがん治療を受ける対象への関わり
- ・ 今回の理論を用いて更に事例検討をして欲しい。
- ・ 妊娠に関わること
- ・ がんと生殖、がんを発症した周産期における女性の支援
- ・ CNS のコンサルテーションについて（組織変革など）